

令和4年度開講科目

科目名					
まちづくりの思想と技術（旧：地域課題解決）					
適用プログラム					
観光高度化人材育成プログラム 地域づくり加速化人材育成プログラム					
担当者					
田中友悟					
開講期	後期集中（10/26～1/18）	履修年次	1～4年	必修選択別	選択
単位数	2単位	時間数	30時間	授業形式	学内対面
カテゴリ	技能科目	定員	30人	受講料	28,600円
【科目の目的】 地域課題の解決には、問題を捉えて構造化する分析力、資源をつなぎあわせて価値をうみだす編集力、活動を事業へと育てていく企画力など、複合的な能力が求められます。「まちづくり」とは、そのような課題解決のための実践知に加え、私たちみんなが共有する暮らしの土台ともいえる「公共」を育てていく営為です。それは、私とまちの幸福な関係を築くための思想であり、技術だといえます。 本科目では、世間一般には抽象的とされる「まちづくり」という概念を捉えなおし、私たちの身近な行為である「作る」と「使う」の視点から私とまち（地域）を結ぶまちづくりの技術・姿勢を学びます。 （学士基盤力）実践力・問題解決力、人間関係形成力、地域・国際コミットメント力					
【到達目標】 （知識・理解） まちづくり・地域づくりの現代的意義を理解し、さまざまな実践例を知る。 （思考・判断・表現／思考・技能・実践） 社会課題の構造を捉え、まちづくり・地域づくりの可能性を考察できる。 （態度・志向性） 日々の生活が、まちづくり・地域づくりと密接につながっていることを意識できる。					

【授業内容】

- 第1回 (10/26 水) オリエンテーション (まちづくりとはなにか・講義の詳細)
- 第2回 (11/ 2 水) まちづくり概論① (まちづくりを支える理論)
- 第3回 (11/ 2 水) まちづくり概論② (日本におけるまちづくりの歴史・多様な実践のかたちとその可能性)
- 第4回 (11/ 9 水) ゲスト講演「〈私〉から始めるまちづくり」/まちづくりの思想と技術を知る①
- 第5回 (11/ 9 水) ディスカッション「〈私〉から始めるまちづくり」
- 第6回 (11/30 水) ゲスト講演「〈公〉から広がるまちづくり」/まちづくりの思想と技術を知る②
- 第7回 (11/30 水) ディスカッション「〈公〉から広がるまちづくり」
- 第8回 (12/ 7 水) ゲスト講演「〈公共〉を支えるまちづくり」/まちづくりの思想と技術を知る③
- 第9回 (12/ 7 水) ディスカッション「〈公共〉を支えるまちづくり」
- 第10回 (12/14 水) ワークショップ/まちづくりの思想と技術を考える①
- 第11回 (12/21 水) ゲスト講演「まちを〈つくる〉営み」/まちづくりの思想と技術を知る④
- 第12回 (12/21 水) ディスカッション「まちを〈つくる〉営み」
- 第13回 (1/11 水) ゲスト講演「まちを〈つくる〉営み」/まちづくりの思想と技術を知る⑤
- 第14回 (1/11 水) ディスカッション「まちを〈つかう〉営み」
- 第15回 (1/18 水) 学習の振り返り・発表/まちづくりの思想と技術を考える②

(授業外の学修)

普段からまちづくりや地域づくりに関わるニュースや活動に関心を持って情報に触れること。

普段から自分が感じる「美しい」「おもしろい」「興味深い」という感情の源泉について考えること。

【教育方法】

●授業について

・コロナウイルス感染拡大の状況にあわせて、オンライン (zoom) に切り替えての実施を予定していますが、基本は対面での授業となります。

・毎回振り返りシートを配布し、履修者の意見や質問に対する意見交換の時間をもうける双方向型の授業形式となります。

●授業の流れ

1～3回はスライドを用いた講義形式で進める。

4～9回は日本各地でまちづくりに取組んでいるさまざまな立場のゲストをお招きし、まちづくりの思想と技術について講演をいただきます。

10回はワークショップ形式でそれまでの学びを受講生間で共有し、授業後半にむけたリサーチクエスチョンを検討する。

11回～14回はまちづくりの第一線で活躍されるゲストをお呼びし、まちづくりのさまざまな手法を学ぶ。

15回は講義のなかでの学習を振り返り、自分なりのまちづくり論を作成、発表する。

(実務経験のある教員による教育方法)

教員の資格・職業・実務経験：

まちづくりのための事業開発を行うクリエイティブスタジオ Hasen inc 代表取締役/山梨の文化資源の発掘・発信を行う地域商社 山梨市ふるさと振興機構 代表理事/

大学院にて「まちづくりのプロセスとデザイン思想の関係」を研究 (2015～2017)。主に京都、兵庫、山梨にて、まちの文化継承を目的とした調査、企画開発、事業運用までを一貫して担うまちづくり事業に従事 (2015～現在)。これまで取り組んだ人や時間のあいだをつなぐまちづくり事業の経験から、実践的な技術とそれを支える思想をゲストとの対話をとおしてお伝えできればと思います。

方法：

実務経験で得たまちづくりの思想と技術を生かし、全国各地でまちづくりや地域づくりに従事するゲスト講師との議論をとおして、受講生それぞれがまちと関わりを結ぶための様々な方法をお伝えします。

【評価方法】

(知識・理解)

講義最終課題 20%

(思考・判断・表現／思考・技能・実践)

各回の課題（議論への参加や示唆的な発言、レポート） 50%

(態度・志向性)

講義への参加態度（質疑応答、レポート） 30%

【必携図書】

適宜プリントなどを配布します。

【参考図書】

講義時に適宜紹介します。

【履修上の注意】

・本科目は、次の時間帯に山梨県立大学飯田キャンパスで実施します。

10/26 16:30～18:00

11/2～12/7 16:30～19:40

12/14 16:30～18:00

12/21・1/11 16:30～19:40

1/18 16:30～18:00

・毎週受講生からの発言や質問を求める双方向型の講義です。オンラインの場合も顔出しで表情がわかる体制で受講して下さい。

・ゲスト講師に失礼の無いよう、無断遅刻や無断欠席はしないようにしてください。

・授業は基本的に2コマ連続で実施します。（※第1回, 第10回, 第15回は1日1コマ）授業日時を間違えないようにご予定ください。

【履修者へのメッセージ】

私たちの暮らす地域には大小様々な地域課題が存在しています。この地域課題の背景にある構造を捉え、解決へと導く取り組みは往々にして「まちづくり」という言葉で表現されます。しかしこの言葉が想起するのは「都市計画」「ローカルビジネス」「コミュニティデザイン」など多岐に渡り、その本来の意味は曖昧なまま理解されているのが実情です。本講義ではまちづくりの原点に立ち返り、その本来の意義である「公共性」を再確認した上で、受講生の方々にとっての実践的なまちづくり論をつくることを試みます。現在の優良事例を知ったり、過去の歴史を振り返るだけではなく、私たちとまちとの幸福な関わり方を考える時間を共にできればと考えています。

本講義の実践編は「ローカルデザイン演習」です。両講義をセットで受講すると、まちづくりへの理解がより深まる設計となっています。